

# Symantec Enterprise Vault™

## SMTP アーカイブの設定

11.0

# Symantec Enterprise Vault: SMTP アーカイブの設定

本書で説明するソフトウェアは、使用許諾契約に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用することができます。

最終更新日: 2014-11-18

## 法的通知と登録商標

Copyright © 2014 Symantec Corporation. All rights reserved.

Symantec、Symantec のロゴ、Checkmark のロゴ、Enterprise Vault、Compliance Accelerator、および Discovery Accelerator は、Symantec Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国々における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

Symantec 社のこの製品には、Symantec 社が他社への帰属を示す必要がある他社ソフトウェア（「他社プログラム」）が含まれる場合があります。一部の他社プログラムはオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスの下で利用できます。ソフトウェアに付属している使用許諾契約は、それらのオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスで規定されている権利または義務を変更するものではありません。他社プログラムについて詳しくは Symantec 社の製品に付属している **Third Party Software** ファイルを参照してください。

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバース・エンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Symantec Corporation からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

Symantec Corporation が提供する技術文書は Symantec Corporation の著作物であり、Symantec Corporation が保有するものです。保証の免責: 技術文書は現状有姿で提供され、Symantec Corporation はその正確性や使用について何ら保証いたしません。技術文書またはこれに記載される情報はお客様の責任にてご使用ください。本書には、技術的な誤りやその他不正確な点を含んでいる可能性があります。Symantec は事前の通知なく本書を変更する権利を留保します。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR セクション 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により、シマンテック社がオンプレミスとして提供したか、ホストサービスとして提供したかにかかわらず、制限された権利の対象となります。米国政府による本ソフトウェアの使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

弊社製品に関して、当資料で明示的に禁止、あるいは否定されていない利用形態およびシステム構成などについて、これを包括的かつ暗黙的に保証するものではありません。また、弊社製品が稼動するシステムの整合性や処理性能に関しても、これを暗黙的に保証するものではありません。

これらの保証がない状況で、弊社製品の導入、稼動、展開した結果として直接的、あるいは間接的に発生した損害等についてこれが補償されることはありません。製品の導入、稼動、展開にあたっては、お客様の利用目的に合致することを事前に十分に検証および確認いただく前提で、計画および準備をお願いします。

Symantec Corporation  
350 Ellis Street, Mountain View, CA 94043

<http://www.symantec.com>

# 目次

<b>第 1 章</b>	<b>本書について</b> .....	6
	このマニュアルについて .....	6
	Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先 .....	6
	Symantec 社のサポート Web サイトの[How To]記事 .....	8
	Enterprise Vault トレーニングモジュール .....	9
	本書へのご意見 .....	9
<b>第 2 章</b>	<b>Enterprise Vault SMTP アーカイブの概要</b> .....	11
	Enterprise Vault SMTP アーカイブについて .....	11
	SMTP ジャーナル .....	16
	選択 SMTP ジャーナル .....	18
	Enterprise Vault にメッセージをジャーナルする Exchange サーバーを使用する .....	20
<b>第 3 章</b>	<b>SMTP アーカイブのインストール</b> .....	22
	Enterprise Vault SMTP アーカイブコンポーネントのインストールについて .....	22
	レポート .....	23
	監視 .....	23
<b>第 4 章</b>	<b>SMTP アーカイブの設定</b> .....	24
	SMTP アーカイブを設定する手順 .....	24
	SMTP メッセージのアーカイブの作成 .....	26
	保持カテゴリおよび SMTP ポリシーの設定 .....	26
	X-Header について .....	28
	サイトの Enterprise Vault SMTP サーバーの設定 .....	31
	接続するホストの名前または IP アドレスの入力 .....	33
	SSL/TLS 証明書の取得 .....	34
	SMTP ターゲットアドレスの追加 .....	36
	選択 SMTP ジャーナルの追加設定 .....	37
	SMTP アーカイブタスクの追加 .....	38
	SMTP 保存フォルダについて .....	39
	アーカイブ済みメッセージのセーフコピーの保持 .....	41
	タスクの概略レポート .....	41

第 5 章	PowerShell cmdlet .....	42
	SMTP アーカイブのための PowerShell コマンドレットについて .....	42

# 本書について

この章では以下の項目について説明しています。

- [このマニュアルについて](#)
- [Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先](#)
- [本書へのご意見](#)

## このマニュアルについて

このガイドでは、SMTP プロトコルを使用して Enterprise Vault サーバーに送信されたデータをアーカイブする Enterprise Vault SMTP アーカイブの設定方法を説明します。

## Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先

[表 1-1](#) に、Enterprise Vault に付属のマニュアルの一覧を示します。

表 1-1 Enterprise Vault マニュアルセット

マニュアル	コメント
Symantec Enterprise Vault ドキュメントライブラリ	<p>横断検索の可能な Windows のヘルプ (.chm) 形式の次のドキュメントがすべて含まれています。Acrobat (.pdf) 形式のマニュアルへのリンクも含まれています。</p> <p>このライブラリには、次を含む複数の操作でアクセスできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Windows の [スタート] メニューで、[スタート]、[プログラム]、[Enterprise Vault]、[Documentation] の順にクリックします。</li> <li>■ Windows エクスプローラで Enterprise Vault インストール先フォルダ Documentation¥Language のサブフォルダを参照し、EV_Help.chm ファイルを開きます。</li> <li>■ 管理コンソールの [ヘルプ] メニューで [Enterprise Vault のヘルプ] をクリックします。</li> </ul>
導入計画	Enterprise Vault の機能の概要を説明します。
Deployment Scanner	Enterprise Vault をインストールする前に必要なソフトウェアと設定を確認する方法を説明します。
インストール/設定	Enterprise Vault の設定に関する詳細な情報を提供します。
アップグレードの手順	既存の Enterprise Vault インストールを最新バージョンにアップグレードする方法を説明します。
Exchange Server アーカイブの設定	Microsoft Exchange ユーザーメールボックス、ジャーナルメールボックス、パブリックフォルダからアイテムをアーカイブする方法を説明します。
Domino サーバーアーカイブの設定	Domino メールファイルとジャーナルデータベースからアイテムをアーカイブする方法を説明します。
Symantec Enterprise Vault ファイルシステムアーカイブ (FSA) の設定	ネットワークファイルサーバーに保持されているファイルをアーカイブする方法を説明します。
IMAP の設定	Exchange アーカイブとインターネットメールアーカイブへの IMAP クライアントアクセスを設定する方法を説明します。
SharePoint Server アーカイブの設定	Microsoft SharePoint サーバーの内容をアーカイブする方法を説明します。
SMTP アーカイブの設定	他のメッセージングサーバーから SMTP メッセージをアーカイブする方法を説明します。
Symantec Enterprise Vault 管理者ガイド	日常的な管理を実行する方法を説明します。

マニュアル	コメント
バックアップと回復	システム障害が発生した場合に効果的なバックアップ戦略をデータ損失を防止する方法を説明し、回復の手段を提供する方法を説明します。
NSF 移行	Domino および Notes NSF ファイルから内容を Enterprise Vault アーカイブに移行する方法を説明します。
PST 移行	Outlook PST ファイルから内容を Enterprise Vault アーカイブに移行する方法を説明します。
レポート	Enterprise Vault サーバー、アーカイブ、アーカイブ済みアイテムの状態に関するレポートを提供する、Enterprise Vault Reporting の実装方法を説明します。FSA レポートを設定すると、ファイルサーバーとそのボリューム用の追加レポートを利用できます。
ユーティリティ	Enterprise Vault のツールとユーティリティについて説明します。
PowerShell コマンドレット	Enterprise Vault PowerShell コマンドレットを実行して、さまざまな管理タスクを実行する方法を説明します。
レジストリ値	レジストリ値を一覧表示している参照用の文書で、さまざまな側面から Enterprise Vault の動作を修正する場合に使うことができます。
管理コンソールのヘルプ	Enterprise Vault 管理コンソールのヘルプ。
Enterprise Vault Operations Manager のヘルプ	Enterprise Vault Operations Manager のヘルプ。

サポートされているデバイスとソフトウェアのバージョンの最新情報については、次のアドレスから利用可能な『Enterprise Vault Compatibility Charts』を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH38537>

## Symantec 社のサポート Web サイトの [How To] 記事

Enterprise Vault の管理マニュアルの情報のほとんどは、Symantec サポート Web サイトの記事としてオンラインで入手できるようになりました。Google などの任意の一般的な検索エンジンを搭載するインターネットを検索することによって、または次の手順を実行することによってこれらの記事にアクセスできます。



### Symantec 社のサポート Web サイトの [How To] 記事にアクセスする方法

- 1 Web ブラウザのアドレスバーに次を入力してから Enter キーを押します。  
[http://www.symantec.com/business/support/all\\_products.jsp](http://www.symantec.com/business/support/all_products.jsp)
- 2 [Supported Products A-Z] ページで、[Enterprise Vault for Microsoft Exchange] など、目的の製品を選択します。
- 3 [Knowledge Base Search] の使用によって語句を検索するか、または [Most Popular Subjects] のリストを参照します。

## Enterprise Vault トレーニングモジュール

Enterprise Vault Tech Center ([http://go.symantec.com/education\\_evtc](http://go.symantec.com/education_evtc)) からは、Enterprise Vault のための一般に利用できる無料のトレーニングモジュールが提供されています。モジュールは定期的に追加され、現在次のモジュールが含まれています。

- インストール
- 設定
- 開始ウィザード
- Exchange 2010 アーカイブの準備
- Enterprise Vault に対する Exchange 2007 および Exchange 2010 権限の割り当て
- Enterprise Vault ファイルシステムアーカイブ

より高度なインストラクタ主導のトレーニング、仮想トレーニング、オンデマンドのクラスも利用できます。詳しくは、[http://go.symantec.com/education\\_enterprisevault](http://go.symantec.com/education_enterprisevault) を参照してください。

## 本書へのご意見

本書に関するご意見をお聞かせください。必要な情報は簡単に見つけられたでしょうか。また、わかりやすく書かれていたでしょうか。誤りや見落とし、または、マニュアルやヘルプの今後の改訂に役立つ点がありましたら、お知らせください。

ご意見をお送りいただく際は、次の情報を添えてください。

- マニュアルのタイトルとバージョン
- 対象となる項目 (該当する場合)
- お名前

ご意見は、[evdocs@symantec.com](mailto:evdocs@symantec.com) 宛てに、またはご購入先にお送りください。このアドレスは製品マニュアルへのご意見のみを対象としています。

お客様のご意見をお待ちしております。

# Enterprise Vault SMTP アーカイブの概要

この章では以下の項目について説明しています。

- [Enterprise Vault SMTP アーカイブについて](#)
- [SMTP ジャーナル](#)
- [選択 SMTP ジャーナル](#)
- [Enterprise Vault にメッセージをジャーナルする Exchange サーバーを使用する](#)

## Enterprise Vault SMTP アーカイブについて

Enterprise Vault SMTP アーカイブを利用すると、Enterprise Vault は、SMTP プロトコルを使って Enterprise Vault サーバーに送信されたデータをアーカイブできます。SMTP サーバーに情報を送信できるアプリケーションであれば、Enterprise Vault にデータを送信できます。

[表 2-1](#) は SMTP アーカイブの主要なコンポーネントの概要を提供します。Enterprise Vault 管理コンソールまたは Enterprise Vault PowerShell コマンドレットを使って SMTP アーカイブを設定できます。

表 2-1 SMTP アーカイブコンポーネントの概要

コンポーネント	説明
Enterprise Vault SMTP サーバー	<p>SMTP サーバーは Windows サービスの Enterprise Vault SMTP サービスとして実装されます。このサービスは Windows サービスコンソールに表示されますが、Enterprise Vault 管理コンソールには表示されません。</p> <p>SMTP サーバーは SMTP 接続を管理し、Exchange Server や SMTP サーバーなどの Message Transfer Agent (MTA) を中継して Enterprise Vault SMTP サーバーに送信されたメッセージを受信します。Enterprise Vault SMTP サーバーは、メッセージを .eml ファイルとして SMTP 保存フォルダに保存します。</p>
SMTP アーカイブタスク	<p>SMTP アーカイブタスクは、次のように保存フォルダの電子メールファイル进行处理します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ メッセージのルーティングアドレスがアーカイブが有効になっている SMTP ターゲットであるかを検査します。SMTP サイト詳細設定[選択したジャーナルのアーカイブ]が[はい]の場合、メッセージファイルの[宛先]、[送信者]、[CC]、および[BCC]フィールドでも SMTP 対象アドレスを検索します。</li> <li>■ 見つかった SMTP 対象アドレス(アーカイブが有効化されている)ごとに次の処理を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 対象アドレスに関連付けられたポリシーを適用します。</li> <li>■ 対象アドレスに関連付けられたアーカイブにメッセージを格納します。</li> <li>■ 対象アドレスの保持カテゴリを適用します。</li> </ul> </li> <li>■ デフォルトでは、アーカイブが正常に完了した後に保存フォルダからメッセージを削除します。エラーが発生する場合、タスクはファイルを削除しません。</li> </ul> <p>選択 SMTP ジャーナルでは、特定のメッセージのデフォルトの動作を変更できます。</p> <p>p.39 の「SMTP 保存フォルダについて」を参照してください。</p>
SMTP 保存フォルダ	<p>SMTP 保存フォルダは、SMTP アーカイブタスクに割り当てられたローカルフォルダです。フォルダの場所は、SMTP アーカイブタスクのプロパティにあります。Enterprise Vault SMTP サーバーは、アーカイブタスクを処理するためにメッセージをフォルダに入れます。</p> <p>アーカイブが失敗したアーカイブタスクのメッセージは保存フォルダから自動的に削除されません。失敗したメッセージは[Failed]サブフォルダに置かれます。</p>

コンポーネント	説明
SMTP ポリシー	<p>SMTP ポリシーは SMTP ターゲットアドレスに割り当てられます。このポリシーにより、ターゲットアドレスを含むメッセージがアーカイブされる時、SMTP アーカイブタスクがジャーナルレポートと X-Header を管理するしくみが決まります。</p> <p>ポリシーのプロパティを使用して次を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Enterprise Vault にインデックス付けする X-Header</li> <li>■ アーカイブタスクがジャーナルレポートを処理するの、破棄するの</li> <li>■ アーカイブタスクが RMS 保護されたアイテムを処理するしくみ</li> </ul> <p>ポリシーが適用されるターゲットアドレスはポリシーのプロパティにも表示されます。</p> <p>SMTP ポリシーは、管理コンソールの[ポリシー] &gt; [SMTP]に表示されます。</p>
SMTP ターゲットアドレス	<p>SMTP ターゲットアドレスは、Enterprise Vault SMTP サーバーと SMTP アーカイブタスクが Enterprise Vault SMTP サーバーに送信されたメッセージの中で探す SMTP アドレスです。ターゲットプロパティには次の設定が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ターゲットアドレスにする SMTP アドレス。</li> <li>■ ターゲットアドレスを含むメッセージに割り当てるポリシー。</li> <li>■ メッセージに割り当てる保持カテゴリ。</li> <li>■ メッセージを格納するアーカイブ。</li> <li>■ ターゲットアドレスとの間で送受信したメッセージをアーカイブするかどうか。このオプションは選択 SMTP ジャーナルの設定時に使用されます。</li> </ul> <p>SMTP ターゲットは、管理コンソールの[ターゲット] &gt; [SMTP]に表示されます。</p>
SMTP アーカイブ	<p>SMTP アーカイブタスクは、あらゆる種類のアーカイブで SMTP メッセージを格納できます。SMTP アーカイブ機能は主にジャーナルのためにあるので、ジャーナルアーカイブタイプがユーザーアーカイブタイプよりも適しています。デフォルトでは、SMTP アーカイブタスクは常にアーカイブの受信ボックスにメッセージを格納します。</p> <p>SMTP ジャーナルアーカイブを作成できます。これらは管理コンソールの[アーカイブ] &gt; [SMTP]に表示されます。</p> <p>SMTP アーカイブでは、アーカイブは自動作成されません。SMTP ターゲットアドレスを追加するには、関連アーカイブが存在する必要があります。</p>

SMTP アーカイブを実装するには、Enterprise Vault SMTP アーカイブコンポーネントと Enterprise Vault サーバーコンポーネントを SMTP アーカイブを実行するコンピューターにインストールします。

Enterprise Vault サーバーは SMTP サーバーと SMTP アーカイブタスクを 1 つだけホストできます。ただし、複数の Enterprise Vault SMTP サーバーが 1 つのサイトに存在する可能性があります。SMTP アーカイブを設定するときには、Enterprise Vault SMTP サーバー設定とターゲット設定情報がサイト内のすべての Enterprise Vault SMTP サーバーで共有されます。これは、サイト内のあらゆる Enterprise Vault SMTP サーバーがサイト内のすべての SMTP ターゲットに送信されたメッセージをアーカイブできることを意味します。DNS MX レコードなどの負荷分散ソリューションを使ってサイト内の SMTP サーバー全体で SMTP トラフィックを均等に分散できます。

図 2-1 SMTP アーカイブ概要

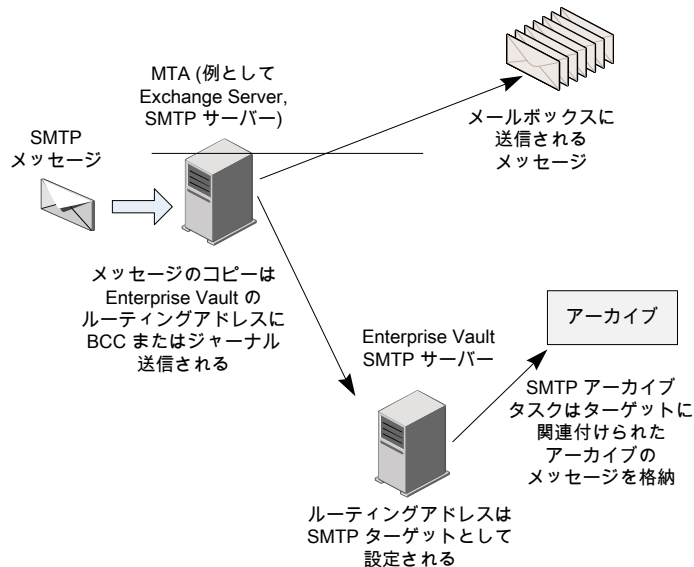


図 2-1 は、SMTP ジャーナルを実行する単純な SMTP アーカイブ環境の例を示します。

- MTA が一部のアプリケーションから SMTP メッセージを受信します。  
この MTA は Exchange サーバーと SMTP メッセージを転送できる他のサーバーのいずれかになります。
- この MTA は宛先メールボックスにメッセージを送ります。
- また、この MTA は、Enterprise Vault SMTP サーバーの SMTP ルーティングアドレスにメッセージをコピーまたはジャーナルするように設定されています。ルーティングアドレスで使用されるドメインは、DNS で作成した、Enterprise Vault SMTP サーバーを参照する MX レコードエイリアスの場合があります。たとえば、ev.example.com。

Enterprise Vault では、ルーティングアドレスを SMTP ターゲットアドレスとして設定する必要があります。

- Enterprise Vault SMTP サーバーはメッセージを受信し、X-RCPT-TO ヘッダーとしてメッセージにルーティングアドレスを追加します。  
次に、SMTP サーバーはメッセージを電子メール(.eml)ファイルとして SMTP 保存フォルダに置きます。
- SMTP アーカイブタスクは保存フォルダのメッセージファイルを処理し、ターゲットアドレスに指定されているアーカイブにそれをアーカイブします。処理の間、ターゲットプロパティに指定されている保持カテゴリーをタスクは適用し、Enterprise Vault により、ポリシーに記載されているすべての X-Header に索引を付けます。

SMTP アーカイブは SMTP 経由でメッセージを送信できるアプリケーションのジャーナルに使えます。ジャーナルされたメッセージは、Symantec Discovery Accelerator など、eDiscovery アプリケーションを利用して検索できます。SMTP アーカイブでは現在、Domino サーバーによってジャーナルされたメッセージのジャーナルレポートの情報が処理されないことに注意してください。

配布リストにメッセージをアーカイブまたは配布リストからメッセージをアーカイブするには、配布リストの SMTP アドレスを SMTP 対象アドレスとして追加する必要があります。

Enterprise Vault SMTP サーバーに送信されたすべてのメッセージをアーカイブするか、選択したメッセージのみをアーカイブするかにより、SMTP アーカイブを異なる方法で設定できます。表 2-2 は、実装できるさまざまなジャーナル設定の概略です。これらの設定は、関連セクションでより詳しく説明されています。

表 2-2 SMTP アーカイブの設定

SMTP アーカイブの設定	説明
SMTP ジャーナル	Enterprise Vault SMTP サーバーに送信されたすべてのメッセージが1つまたは複数のジャーナルアーカイブに保存されます。  p.16 の「SMTP ジャーナル」を参照してください。
選択 SMTP ジャーナル	特定のアドレス間で送受信したメッセージのみをアーカイブするように Enterprise Vault SMTP サーバーを設定します。Enterprise Vault は同じアーカイブまたは複数の異なるアーカイブにあるすべてのメッセージを格納できます。  p.18 の「選択 SMTP ジャーナル」を参照してください。

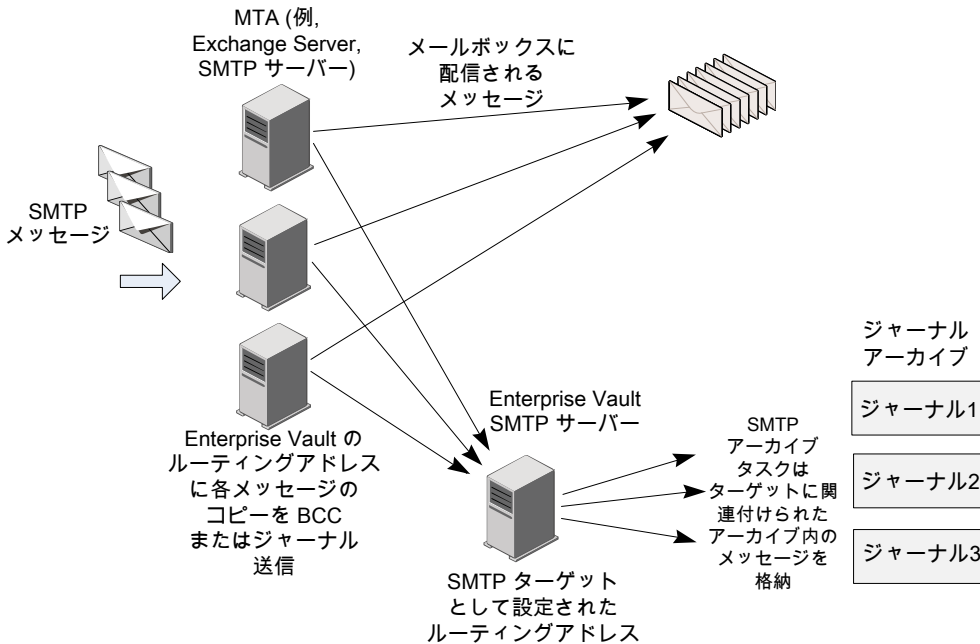
選択 SMTP ジャーナルでは、メッセージのコピーが複数のアーカイブに格納される場合があります。Enterprise Vault は、ポルトストア設定で許可されるように単一インスタンスストレージを実装します。

p.26 の「SMTP メッセージのアーカイブの作成」を参照してください。

同じアーカイブに関連付けられた複数の対象アドレスがメッセージに含まれ、同じ保持カテゴリおよびポリシーがそれらの対象アドレスに関連付けられている場合、メッセージの 1 つのコピーのみがアーカイブに格納されます。

## SMTP ジャーナル

図 2-2 SMTP ジャーナルの例



通常、組織内で、SMTP メッセージは 1 つ以上の MTA によってユーザーのメールボックスに配信されます。MTA は通常、Exchange サーバーまたは SMTP サーバーです。Enterprise Vault SMTP ルーティングアドレス (例: journal1@ev.example.com) に各メッセージのコピーをジャーナルまたは BCC 配信するようにこれらの MTA を設定します。

Enterprise Vault では、ルーティングアドレスを SMTP ターゲットとして設定し、各ターゲットアドレスをアーカイブと関連付けます。SMTP ターゲットのプロパティで、ターゲットアドレスのアーカイブが有効になっていることを確認してください。[この SMTP アドレス



に対して送受信されるメッセージをアーカイブ化する]チェックボックスは、ターゲットアドレスのアーカイブを有効にするために選択する必要があります。新しいターゲットアドレスを追加すると、デフォルトでチェックボックスが選択されます。

**Enterprise Vault SMTP** サーバーは、ルーティングアドレスが **SMTP** ターゲットであることを確認し、ルーティングアドレスをメッセージに **X-RCPT-TO** ヘッダーとして追加します。次に、**SMTP** サーバーはメッセージを **.eml** ファイルとして **SMTP** 保存フォルダに置きます。

**SMTP** アーカイブタスクは、保存フォルダにあるメッセージファイルを処理します。ターゲットアドレスのアーカイブを有効にしたため、このタスクはターゲットルーティングアドレスに関連付けられているアーカイブにメッセージを保存します。アーカイブは任意の種類にすることができます。ジャーナルアーカイブに通常使われるアーカイブの種類は、**SMTP**、**Shared**、**Exchange Journal** アーカイブです。

**SMTP** ジャーナルの **SMTP** アーカイブタスクでは、保存フォルダ内にある各メッセージの **X-RCPT-TO** フィールドのみを診断する必要があります。**SMTP** サイトの詳細設定、[選択ジャーナルアーカイブ]により、各メッセージのすべての送信者と受信者フィールド (**X-RCPT-TO**、**To**、**CC**、**BCC**、**From**、**Sender**) を検索するようにアーカイブタスクを構成します。**SMTP** ジャーナルのパフォーマンスを最適化するには、この高度なサイト設定が[いいえ]に設定されていることを確認してください。この設定のデフォルト値は、「**No**」です。

**図 2-2** は **Enterprise Vault SMTP** サーバーが 1 つの単純な環境を示しています。本稼働環境には、通常、複数の **Enterprise Vault SMTP** サーバーが含まれています。ジャーナルするメッセージが大規模になることがあるため、複数の **Enterprise Vault** ストレージサーバーでアーカイブ負荷を分散することが推奨されます。異なるボルトストアで複数のジャーナルアーカイブを作成することによってこれを実行できます。異なる **Enterprise Vault** ストレージサービスで、各ボルトストアを管理する必要があります。

**DNS** では、異なるジャーナルアーカイブに関連付けられているターゲットルーティングアドレスをサポートするように **MX** レコードエイリアスを設定できます。さらに、適切なターゲットルーティングアドレスを使って **Enterprise Vault SMTP** サーバーにメッセージを送信できるように **MTA** を設定できます。**SMTP** アーカイブは、ターゲットルーティングアドレスに関連付けされたアーカイブにメッセージを格納します。

中継の **MTA** が **Exchange** サーバーである場合、ジャーナルルールを作成することによって、**Enterprise Vault SMTP** サーバーで適切なルーティングアドレスを選択できます。

p.20 の「[Enterprise Vault にメッセージをジャーナルする Exchange サーバーを使用する](#)」を参照してください。

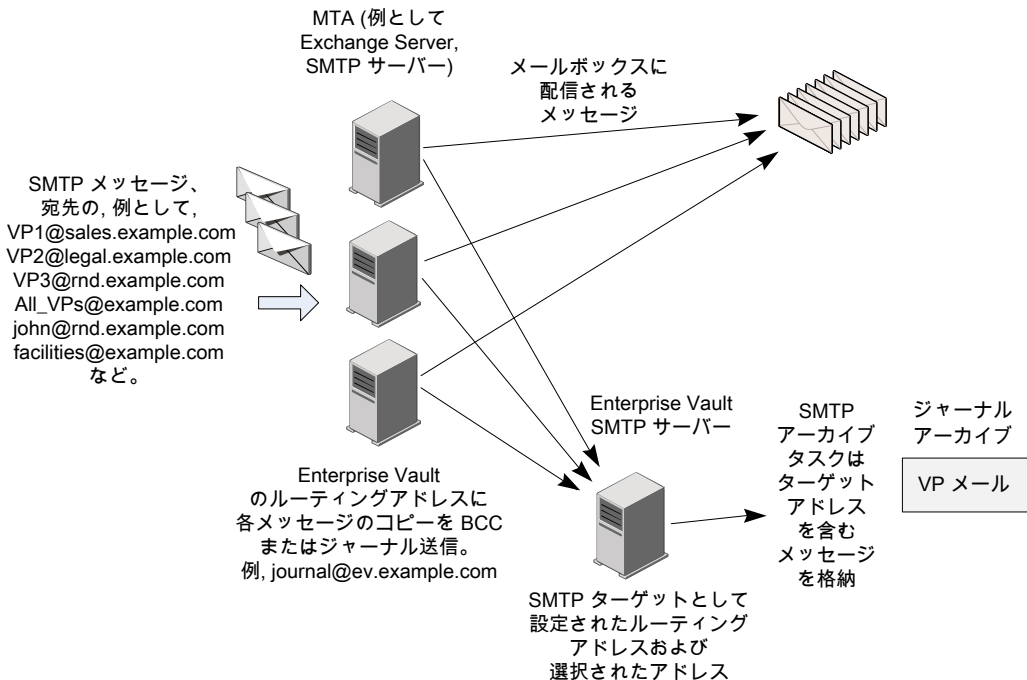
複数の **Enterprise Vault SMTP** サーバー上でジャーナルメッセージを配布するのに使用できる負荷分散ソリューションがあります。たとえば、基本の負荷分散は **DNS MX** レコードを使用して実装することができます。

次の点は、**SMTP** ジャーナルの実装時に考慮する必要のある主な作業の概略です。

- Enterprise Vault SMTP ルーティングアドレスにすべてのメッセージのコピーを BCC 配信またはジャーナルするようにリレー MTA を設定します。
- Enterprise Vault で、使用するアーカイブを決定します。これらは任意の種類にすることができます。SMTP ターゲットアドレスとしてルーティングアドレスを設定する前に、アーカイブが存在するする必要があります。
- Enterprise Vault で、SMTP ターゲットとしてルーティングアドレスを設定し、それらのアドレスのアーカイブが有効になっていることを確認します。つまり、ターゲットのプロパティで、[この SMTP アドレスに対して送受信されるメッセージをアーカイブ化する] チェックボックスが選択されていることを確認します。
- SMTP サイト詳細設定、[選択したジャーナルのアーカイブ]が[いいえ]に設定されていることを確認します。

## 選択 SMTP ジャーナル

図 2-3 選択 SMTP ジャーナルの例



特定の電子メールアドレスに対して送受信されるメッセージのみをアーカイブする場合、選択 SMTP ジャーナルを実装できます。たとえば、[図 2-3](#)では、`example.com` のすべ

ての上級マネージャーに対するメッセージのみがアーカイブされます。VP1、VP2、VP3 に対するメッセージは、VP mail というアーカイブに格納されます。これらのマネージャーのアドレス、VP1@sales.example.com、VP2@legal.example.com、VP3@rnd.example.com は、SMTP ターゲットアドレスとして追加され、アーカイブが有効になります。アドレス、All\_VPs@example.com は、社内のすべての上級マネージャーを含む配布リスト用の SMTP アドレスです。配布リストに対してメッセージをアーカイブするには、このアドレスをターゲットとしても追加し、アーカイブを有効にする必要があります。

SMTP ジャーナルの場合は、中継の MTA の BCC または Enterprise Vault SMTP ルートアドレスに対するすべてのメッセージのジャーナルコピーです。Enterprise Vault SMTP サーバーは、ルーティングアドレスをターゲットアドレスとして認識し、SMTP 保存フォルダにメッセージを置きます。ただし、選択 SMTP ジャーナルでは、ターゲットルーティングアドレスのアーカイブを有効にしません。そのため、アーカイブタスクは、ルーティングアドレスに関連付けられたアーカイブ内にメッセージを格納しません。その代り、タスクは各メッセージを検索して、選択したターゲットアドレスを探し、見つかったターゲットアドレスに関連付けられているメッセージをアーカイブに保存します。

上述の例では、VP1@sales.example.com、VP2@legal.example.com、VP3@rnd.example.com、All\_VPs@example.com に対するメッセージは、1 つのアーカイブ、VP mail に格納されます。ただし、ターゲットアドレスは異なるアーカイブと関連付けることができました。1 つのメッセージに選択したターゲットアドレスが複数含まれている場合、メッセージの 1 つのコピーが複数のアーカイブに格納されることがあります。Enterprise Vault は、ボルトストア設定で許可されるように単一インスタンスストレージを実装します。

選択されたターゲットアドレスのうちのどれも含んでいないメッセージはアーカイブされません。上の例では、john@rnd.example.com と facilities@example.com は選択したターゲットアドレスとして設定されません。このアーカイブタスクは、選択したターゲットアドレスが含まれる場合、john または facilities との間で送受信されたメッセージのみをアーカイブします。

次の点は、選択 SMTP ジャーナルの実装時に考慮する必要のある主な作業の概略です。

- Enterprise Vault SMTP ルーティングアドレスにすべてのメッセージのコピーを BCC 配信またはジャーナルするようにリレー MTA を設定します。
- Enterprise Vault で、使用するアーカイブを決定します。これらは任意の種類にすることができます。SMTP ターゲットアドレスを設定する前に、アーカイブが存在する必要があります。
- Enterprise Vault で、SMTP ターゲットとしてルーティングアドレスを設定しますが、アーカイブは有効にしません。つまり、このターゲットのプロパティで、[この SMTP アドレスに対して送受信されるメッセージをアーカイブ化する]チェックボックスを選択しません。

- アーカイブする選択したアドレスを SMTP ターゲットとして構成します。これらのターゲットのプロパティで、ターゲットのアーカイブを有効にします。つまり、[この SMTP アドレスに対して送受信されるメッセージをアーカイブ化する]チェックボックスを選択します。  
配布リストに対するメッセージをアーカイブする場合、配布リストの SMTP アドレスをターゲットとして追加し、アーカイブを有効にする必要があります。
- SMTP サイト詳細設定、[選択したジャーナルのアーカイブ]が[はい]に設定されていることを確認します。これにより、SMTP アーカイブタスクはすべての送信者および受信者フィールド (X-RCPT-TO、To、CC、BCC、From、Sender) を検索に含めません。
- 保存フォルダにある、選択したターゲットアドレスに含まれないメッセージに対するアクションを決定します。デフォルトでは、アーカイブタスクはそのようなメッセージを削除します。SMTP サイト詳細設定、[受信者または一致するターゲットがないメッセージを削除する]を使用してこの動作を変更できます。  
p.39 の「SMTP 保存フォルダについて」を参照してください。

複数の Enterprise Vault SMTP サーバー上のアーカイブの負荷を分散するだけでなく、SMTP ジャーナル用に記述されているとおりにメッセージ配布の負荷も分散できます。

p.16 の「SMTP ジャーナル」を参照してください。

## Enterprise Vault にメッセージをジャーナルする Exchange サーバーを使用する

Enterprise Vault Exchange ジャーナルアーカイブの代替として、Enterprise Vault SMTP アーカイブを利用し、Exchange サーバーからジャーナルメッセージを保存できます。SMTP を使用してこの関数を実行する場合、SMTP アーカイブ、さらに Enterprise Vault Exchange ジャーナルアーカイブを設定する必要はありません。

SMTP アーカイブの場合、SMTP アドレスにメッセージをジャーナルするように Exchange サーバーを設定できます。

Exchange データベースジャーナルとトランスポートルールジャーナルのいずれかを利用し、Exchange データベースのユーザーのサブセットのメールをアーカイブできます。トランスポートルールジャーナルは Exchange Enterprise CAL を必要とします。

- データベースジャーナルを使用する場合、Enterprise Vault にすべてのメッセージをジャーナルするように Exchange を設定できます。
- トランスポートルールジャーナルを使用する場合、Exchange ジャーナルルールを作成し、Enterprise Vault にジャーナルされるユーザーを選択できます。

代わりに、Exchange データベースジャーナルを使い、選択されたメールボックスのメッセージをアーカイブする場合、Enterprise Vault SMTP アーカイブサーバーにジャーナルするように設定されているデータベースにメールボックスを移動できます。

SMTP ジャーナルでは、アーカイブは対象ルーティングアドレスによって決定されます。複数のターゲットアーカイブが必要な場合、複数のルーティングアドレスが必要になります。対象ルーティングアドレスごとに異なるアーカイブを設定します。パフォーマンスを最適化するためには、アーカイブを複数の Enterprise Vault ストレージサーバーに置く必要があります。Exchange トランスポートルールジャーナルのルールを使用すれば、適切な対象ルーティングアドレスにメッセージを送信できます。

# SMTP アーカイブのインストール

この章では以下の項目について説明しています。

- [Enterprise Vault SMTP アーカイブコンポーネントのインストールについて](#)
- [レポート](#)
- [監視](#)

## Enterprise Vault SMTP アーカイブコンポーネントのインストールについて

Enterprise Vault SMTP サーバーに必要なソフトウェアと設定については『インストールと設定』を参照してください。

SMTP アーカイブを実行する各サーバーで、少なくとも Enterprise Vault サービスと SMTP アーカイブコンポーネントをインストールする必要があります。

Enterprise Vault の初回設定をインストールし、設定し、実行する方法の詳しい手順について詳しくは『インストールと設定』を参照してください。

Enterprise Vault インストールプログラムは SMTP アーカイブコンポーネントをインストールするときに、SMTP サーバーをインストールします。SMTP サーバーは Windows サービスの Enterprise Vault サービスとして実装されます。このサービスは Windows サービスコンソールに表示されますが、Enterprise Vault 管理コンソールには表示されません。

Enterprise Vault の初回設定が完了したら、このマニュアルに従い、SMTP アーカイブ機能を設定できます。

既存の Enterprise Vault サーバーに Enterprise Vault SMTP コンポーネントをインストールする場合、既存のボルトストアとアーカイブを使用するか、SMTP コンテンツ専用

のボルトストアとアーカイブを作成します。**Enterprise Vault** は、ボルトストア設定で許可されるように単一インスタンスストレージを実装します。

p.26 の「**SMTP メッセージのアーカイブの作成**」を参照してください。

**Enterprise Vault SMTP** アーカイブを使用して **Exchange** サーバーからジャーナルされたメッセージを格納する場合、**SMTP** アーカイブに加え、**Enterprise Vault Exchange** ジャーナルアーカイブを設定する必要はありません。

## レポート

**SMTP** アーカイブタスクは、フォルダ

`Enterprise_Vault_installation_folder\Reports\SMTP\SMTP_task_name` で概略レポートとエラーログレポートを生成します。

**SMTP** アーカイブにより詳しい利用レポートを生成する場合、**Enterprise Vault Reporting** コンポーネントをインストールし、設定する必要があります。**Enterprise Vault Reporting** では、[コンテンツプロバイダのライセンスと使用状況の概略レポート] という名前のレポートに、**SMTP** アーカイブを利用してアーカイブされたデータの情報が含まれます。

## 監視

**SMTP** アーカイブコンポーネントの監視は、**Enterprise Vault** によってサポートされる自動監視メカニズムに含まれます。

- パフォーマンス監視。[サイトプロパティ]の[監視]タブで、**SMTP** アーカイブコンポーネントのパフォーマンス監視を有効にできます。監視対象のアイテムがしきい値に達すると、メッセージがアプリケーションイベントログに記録され、**Enterprise Vault** システムの[状態]に警告が生成されます。
- **Microsoft System Center Operations Manager (SCOM)**。提供される **Enterprise Vault** 管理パックにより、**SMTP** アーカイブの運用と性能を監察できます。

# SMTP アーカイブの設定

この章では以下の項目について説明しています。

- [SMTP アーカイブを設定する手順](#)
- [SMTP メッセージのアーカイブの作成](#)
- [保持カテゴリおよび SMTP ポリシーの設定](#)
- [サイトの Enterprise Vault SMTP サーバーの設定](#)
- [SMTP ターゲットアドレスの追加](#)
- [SMTP アーカイブタスクの追加](#)

## SMTP アーカイブを設定する手順

SMTP アーカイブを設定するには、ボルトサービスアカウント、または SMTP 管理者ロールに割り当てられているアカウントを使ってログインする必要があります。また、SMTP 管理者ロールは、メッセージ管理者ロールとメイン管理者ロールにも含まれています。

詳しくは『Symantec Enterprise Vault 管理者ガイド』の「ロールベースの管理」を参照してください。

**表 4-1** は SMTP アーカイブの設定に必要なタスクの概要です。詳しい手順は関連セクションにあります。

すべての手順を手動で実行するか、手順 1 と 2 を実行し、設定ウィザードを使用して手順 3 から手順 5 に進みます。



### SMTP アーカイブの設定ウィザードを起動するには

- 1 表 4-1 に一覧表示されているように手順 1 と 2 を実行します。
- 2 管理コンソールで、[ターゲット]の下で[SMTP]を右クリックし、[新規] > [ターゲット電子メールアドレス]を選択します。

設定ウィザードが開始され、手順 3、4、5 に進みます。

SMTP ターゲットアドレスを設定すると、手順 1 と 2 で設定したアーカイブ、保持カテゴリ、ポリシーの選択を求めるメッセージが表示されます。

表 4-1 SMTP アーカイブを設定する手順

手順	作業	説明
手順 1	アーカイブを作成します。	p.26 の「SMTP メッセージのアーカイブの作成」を参照してください。
手順 2	適切な SMTP アーカイブポリシーと保持カテゴリを設定します。	p.26 の「保持カテゴリおよび SMTP ポリシーの設定」を参照してください。
手順 3	サイト内のすべての Enterprise Vault SMTP サーバーの SMTP サーバー設定を構成します。	p.31 の「サイトの Enterprise Vault SMTP サーバーの設定」を参照してください。  参照先のセクションに記載されているように、手順 3 から 5 は手動で実行できます。または、設定ウィザードを使うこともできます。  p.25 の「SMTP アーカイブの設定ウィザードを起動するには」を参照してください。
手順 4	SMTP ターゲットアドレスの追加。	p.36 の「SMTP ターゲットアドレスの追加」を参照してください。
手順 5	SMTP アーカイブタスクを作成し、SMTP 保存フォルダを設定します。	p.38 の「SMTP アーカイブタスクの追加」を参照してください。

このセクションでは、Enterprise Vault 管理コンソールを利用し、これらの手順の実行方法について説明します。代わりに、SMTP アーカイブのための Enterprise Vault PowerShell コマンドレットを使用し、設定タスクを実行できます。コマンドレットは特に、大量の SMTP ターゲットアドレスの追加などの作業に便利です。

p.42 の「SMTP アーカイブのための PowerShell コマンドレットについて」を参照してください。

管理コンソールと Enterprise Vault PowerShell コマンドレットのいずれを使用するかとは関係なく、設定手順は示された順序で実行する必要があります。

## SMTP メッセージのアーカイブの作成

SMTP ターゲットアドレスを作成するとき、ターゲットアドレスとアーカイブを関連付けます。アーカイブはすべての種類の既存のアーカイブにすることができます。また、SMTP アーカイブを使用して格納されるアイテムを保持するために新しいアーカイブを作成する場合があります。ジャーナルアーカイブに通常使われるアーカイブの種類は、SMTP、Shared、Exchange Journal、または Domino Journal アーカイブです。SMTP ターゲットアドレスを追加する前に、SMTP アーカイブに必要な新しいアーカイブを作成する必要があります。Enterprise Vault はこれらを自動的に作成しません。

選択 SMTP ジャーナルでは、メッセージのコピーが複数のアーカイブに格納される場合があります。

Enterprise Vault は、ボルトストア設定で許可されるように単一インスタンスストレージを実装します。ボルトストアグループのすべてのボルトストアで単一インスタンスストレージを有効にするには、次の条件を満たす必要があります。

- アーカイブが同じボルトストアグループにある必要があります。
- ボルトストアグループの設定でグループ内共有を許可する必要があります。

ボルトストア内で単一インスタンスストレージを有効にするには、次の条件を満たす必要があります。

- アーカイブは同じボルトストアにある必要があります。
- 親ボルトストアグループの設定でグループ内共有を許可する必要があります。

SMTP アーカイブタスクの既定の動作は、アーカイブの受信ボックスにメッセージを格納することです。

特別な X-Header である X-Kvs-OriginalLocation を使い、アーカイブタスクの動作を変更することができます。この X-Header を利用し、メッセージを格納するためアーカイブのフォルダを指定できます。

## 保持カテゴリおよび SMTP ポリシーの設定

SMTP 対象アドレスを追加する前に、アーカイブする SMTP メッセージに対して適切な保持カテゴリポリシーおよび SMTP ポリシーが存在しているかをチェックします。必要な場合は、これらのアイテムに対して新しい保持カテゴリまたはポリシーを作成します。

### 保持カテゴリについて

Enterprise Vault 管理コンソールでは、保持カテゴリは[ポリシー]の下の[保持カテゴリ]コンテナにあります。

アーカイブタスクは、対象アドレスを含むメッセージを格納する際に、格納したメッセージに対象に対して設定した保持カテゴリを割り当てます。保持カテゴリは、保持期間(格納したメッセージを保持する最大時間)を定義します。

保持カテゴリのプロパティでは、保持カテゴリのユーザーへの可視性、および Enterprise Vault またはユーザーによるアーカイブアイテムの削除を制御することもできます。これらのいずれかの設定を変更するには、Enterprise Vault 管理コンソールで保持カテゴリのプロパティを開きます。この設定は、新規保持カテゴリウィザードにはありません。

### 新しい保持カテゴリを作成する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、[ポリシー]が表示されるまでボルトサイト階層を展開します。
- 2 [ポリシー]を展開します。
- 3 [保持カテゴリ]を右クリックし、ショートカットメニューの中で[新規]、[保持カテゴリ]の順にクリックします。新規保持カテゴリウィザードが起動します。
- 4 ウィザードに従って操作します。
- 5 保持カテゴリのプロパティを表示または変更するには、右側のペインで新しい保持カテゴリをダブルクリックします。

詳しくは、『Symantec Enterprise Vault 管理者ガイド』の「新規保持カテゴリの作成」を参照してください。

## SMTP ポリシーについて

Enterprise Vault 管理コンソールで、SMTP アーカイブポリシーは[SMTP]コンテナの[ポリシー]にあります。

表 4-2はポリシープロパティで利用可能な設定のリストです。

表 4-2 SMTP ポリシーのプロパティ

プロパティ	説明
[名前]と[説明]	ポリシー名とそのアプリケーションの説明。
X-Header	SMTP メッセージで特定の X-Header にインデックス付けするように Enterprise Vault を設定する場合、X-Header をポリシーに追加する必要があります。  また特別な Enterprise Vault X-Header があります。それを利用してメッセージのアーカイブ方法をカスタマイズできます。これらのヘッダーは「X-Kvs」から始まります。Enterprise Vault は「X-Kvs」のヘッダーを認識し、処理します。X-header リストにこれらを追加する必要はありません。  p.28 の「X-Header について」を参照してください。

プロパティ	説明
詳細	<p>次の詳細設定は、アーカイブタスクがジャーナルレポートメッセージを処理する方法を制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>RMS</b> 保護されているアイテムのテキストコピーを消去します。ジャーナルレポート解読が <b>Exchange Server 2013</b> または <b>Exchange Server 2010</b> で設定されれば、2 つのメッセージ (<b>RMS</b> で保護されている元のメッセージと平文バージョン) がジャーナルレポートに添付されます。このポリシー設定は <b>Enterprise Vault</b> がアーカイブの間にプライマリメッセージとして平文メッセージを使うか、<b>RMS</b> で保護されたメッセージを使うかを制御します。</li> <li>■ ジャーナルレポート処理。この設定により、<b>Enterprise Vault</b> がジャーナルレポートを処理し、メッセージとともに格納するか、それとも破棄するかが制御されます。ジャーナルされた <b>SMTP</b> メッセージを含むアーカイブにユーザーがアクセスできる場合、メッセージの <b>BCC</b> 受信者など、詳細にアクセスできないようにジャーナルレポートを破棄することがあります。</li> </ul> <p>これらの詳細設定については『管理者ガイド』で詳しく説明されています。「SMTP ポリシーの詳細設定」の「<b>ジャーナルレポート設定</b>」セクションを参照してください。</p>
対象	<p>このポリシーが適用される <b>SMTP</b> ターゲットアドレス。このプロパティには、<b>SMTP</b> ターゲットを作成し、ポリシーを割り当てたときにデータが入力されます。</p>

### 新しい SMTP ポリシーを作成する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、[ポリシー]が表示されるまでボルトサイト階層を展開します。
- 2 [ポリシー]を展開し、[SMTP]をクリックします。既存の SMTP ポリシーが右側のペインに一覧表示されます。
- 3 [SMTP]を右クリックし、ショートカットメニューで[新規作成]、[ポリシー]の順にクリックします。新規 SMTP ポリシーのページが開きます。
- 4 新しいポリシーの名前と説明を入力し、[OK]をクリックします。
- 5 ポリシーのプロパティを表示または変更するためには、右側のペインの新しいポリシーをダブルクリックします。

## X-Header について

MTA かサードパーティアプリケーションは、Enterprise Vault に送られる SMTP メッセージに X-Header を追加できます。Enterprise Vault がこれらのヘッダーを認識し、メッセージの索引に追加するために、X-Header をポリシーの X-Header 一覧に追加します。次の情報を指定します。

- X-Header 名前。たとえば、X-Company-ID。
- X-Header に含まれる値の種類 (文字列、整数、日時)。
- X-Header を Enterprise Vault 検索基準の検索可能に追加できるかどうか。
- X-Header を検索基準の取得可能で返せるかどうか。

メッセージには同じ X-Header の複数のインスタンスを追加できます。Enterprise Vault は、最初の値のみをインデックス付けします。

インデックスを付ける Enterprise Vault のメッセージに複数のプロパティを追加する場合、特別な Enterprise Vault X-Header である X-Kvs-IndexData を使用するとより効率的になります。

## X-Kvs X-Header について

このセクションでは、サードパーティ製のアプリケーションや MTA がメッセージに追加してポリシーやターゲットの設定を上書きできる特別な Enterprise Vault X-Header について説明します。これらの X-Header は「X-Kvs」から始まります。Enterprise Vault は「X-Kvs」のヘッダーを認識して処理します。ポリシープロパティの X-header 一覧にこれらを追加する必要はありません。

同じ X-Header の複数のインスタンスがメッセージに含まれる場合は、Enterprise Vault は最初のインスタンスのみを使用し、それ以外を無視します。

## X-Kvs-Archived

X-Kvs-Archived はメッセージを格納するアーカイブの ID を提供します。例:

X-Kvs-Archived: 160EEB78D4253BE40AA8EBEBA09C7DFEE1210000evserver1

このヘッダーを使うと、メッセージのターゲットアドレスに設定されているアーカイブとは異なるアーカイブを特定できます。

たとえば、メッセージはターゲットアドレスの journal1@example.com に送られますが、そのターゲットアドレスに設定されているアーカイブは journal1 です。X-Kvs-Archived がメッセージに追加された場合、Enterprise Vault は、journal1 ではなく、X-Header で特定されたアーカイブにメッセージを保存します。

## X-Kvs-IndexData

X-Kvs-IndexData はインデックス付けする Enterprise Vault に 1 つ以上のプロパティを提供するのに使えます。標準 X-Header を使用し、X-Header ごとに 1 つのプロパティだけを追加できます。X-Kvs-IndexData ヘッダーでは、1 つの X-Header で複数のプロパティを追加できます。ヘッダーの内容は XML を使用して指定されます。

次の例では、Enterprise Vault の 2 つのプロパティをインデックスに追加します。

```
X-Kvs-IndexData: <ARCHIVED_ITEM version="1.0"><PROPSSET  
NAME="EVXHDR"><PROP NAME="App" type="string" RESULTS="true"
```

```
SEARCH="true">ChatApp1</PROP></PROPSET><PROPSET NAME="EVXHDR"><PROP  
NAME="Dept" type="integer" RESULTS="true"  
SEARCH="true">5</PROP></PROPSET></ARCHIVED_ITEM>
```

最初のプロパティ **EVXHDR.App** に値 **ChatApp1** があります。このプロパティは検索可能であり、取り込み可能です。

2 つ目のプロパティは値が **5** の **EVXHDR.Dept** です。このプロパティも検索可能であり、取り込み可能です。

## X-Kvs-MessageType

**X-Kvs-MessageType** はメッセージの種類を識別します。例: **X-Kvs-MessageType: Bloomberg**

このヘッダーを使ってアーカイブ時に **Enterprise Vault** がメッセージに割り当てる **Vault.MsgType** プロパティの値が上書きされます。デフォルトでは、SMTP アーカイブを使用してメッセージをアーカイブする場合は、**Enterprise Vault** は値 **SMTP.Mail** を **Vault.MsgType** プロパティに割り当てます。

**Vault.MsgType** プロパティの値は、**Discovery Accelerator** などの検索アプリケーションで検索するメッセージのフィルタ処理に使用できます。たとえば、SMTP アーカイブを使って **Bloomberg** メッセージをアーカイブする場合には、メッセージの種類が **Bloomberg** として識別される必要があります。メッセージの種類が **Bloomberg** に設定されていない場合、メッセージは **Bloomberg** メッセージの **Discovery Accelerator** 検索に含まれません。

## X-Kvs-OriginalLocation

**X-Kvs-OriginalLocation** はメッセージに設定するコンテンツソース内の場所を識別します。元の場所はメッセージが存在するコンテンツソースのフォルダを示します。これは最上位レベルのフォルダの名前またはフォルダパスに設定できます。例:

**X-Kvs-OriginalLocation: CompanyA ¥ ProductB ¥ CustomerC**

デフォルトでは、SMTP アーカイブタスクにより、受信ボックスのすべてのメッセージがアーカイブされます。その結果、アーカイブタスクが使うアーカイブの検索により受信ボックスのすべてのアイテムが見つけられます。

**X-Kvs-OriginalLocation** ヘッダーをメッセージに追加し、アーカイブ内のメッセージの場所を指定できます。メッセージに上の例の **X-Header** が含まれる場合、タスクは次の場所にメッセージを格納します。

トップレベルフォルダ: **CompanyA**

サブフォルダ: **ProductB**

サブフォルダ: **CustomerC**

フォルダ構造が存在しない場合、メッセージを格納するとき、タスクによりフォルダが作成されます。

## X-Kvs-RetentionCategory

X-Kvs-RetentionCategory は、メッセージに割り当てるために保持カテゴリの ID を提供します。例: X-Kvs-RetentionCategory:

```
1505EB2CDB9C6AA44B30335E4A785F98C1b10000evserver1
```

このヘッダーを利用し、メッセージのターゲットアドレスに設定されている保持カテゴリとは異なる保持カテゴリを特定できます。

たとえば、メッセージはターゲットアドレスの `journal1@example.com` に送られ、そのターゲットアドレスに設定されている保持カテゴリは `7years` です。X-Kvs-RetentionCategory がメッセージに追加された場合、Enterprise Vault は、`7years` ではなく、X-Header で特定された保持カテゴリを適用します。

## Enterprise Vault 検索または Discovery Accelerator を使用した特定の X-Header プロパティのメッセージの検索

Discovery Accelerator と Enterprise Vault 検索の詳細検索機能を使用して、X-Header プロパティを検索できます。Enterprise Vault 検索で、最初に [環境設定] ダイアログボックスのカスタムフィールドの表示をオンにする必要があります。この設定手順については、Enterprise Vault 検索のオンラインヘルプを参照してください。

Enterprise Vault は、X-Headers プロパティをカスタムプロパティセット、EVXHDR に追加します。X-Header プロパティを検索するとき、プロパティセットとプロパティ名を EVXHDR の形式で指定します。X-Header\_name。たとえば、EVXHDR.X-CompanyID または EVXHDR.X-Kvs-ArchiveId。

X-Header 名と値は大文字と小文字を区別します。

# サイトの Enterprise Vault SMTP サーバーの設定

Enterprise Vault の初回設定を完了したら、このセクションの説明に従い、Enterprise Vault SMTP サーバーの SMTP 接続を設定します。

これらの設定は Enterprise Vault ディレクトリに格納され、サイト内の各 Enterprise Vault SMTP サーバーに伝達されます。Enterprise Vault SMTP サーバーで Enterprise Vault Admin サーバーを起動または再起動すると、その SMTP サーバーの設定がディレクトリの設定と同期します。

Enterprise Vault 管理コンソールでは、SMTP サーバー設定は [ターゲット] > [SMTP] のコンテナのプロパティにあります。

**Enterprise Vault SMTP サーバーを設定するには**

- 1 Enterprise Vault 管理コンソールをホストするコンピュータで、Vault Service アカウントまたは SMTP 管理者ロールを持つアカウントとしてログオンします。
- 2 Enterprise Vault 管理コンソールを開きます。

- 3 ナビゲーションペインで、サイトを展開し、[ターゲット]コンテナを展開します。
- 4 [SMTP]コンテナを右クリックし、[プロパティ]を選択します。
- 5 SMTP プロパティダイアログボックスが表示されます。

ダイアログボックスの初回表示時には、[設定の構成...]をクリックし、SMTP サーバー設定ウィザードを起動します。

このウィザードで、SMTP サーバーの次の設定を構成できます。

SMTP ポート	SMTP サーバーが要求を待つポート。デフォルトでは、SMTP サーバーは 25 番ポートで応答準備します。指定したポートが各 SMTP サーバーで開いていること確認してください。
最大メッセージサイズ	SMTP サーバーが受け入れる SMTP メッセージの最大サイズ。最大メッセージサイズを指定しない場合、メッセージのサイズには制限がありません。
認証	<p>Enterprise Vault SMTP サーバーに接続するとき、MTA により使用される資格情報を定義します。</p> <p>接続するホストに接続時に認証を使用させる場合、使用する必要がある資格情報を入力します。ユーザー名は <code>user@domain</code> の形式で指定します。ユーザー名を既存の電子メールアドレスまたは <b>Active Directory</b> のアカウントにする必要はありません。</p> <p>デフォルトでは認証が必要です。</p> <p>次のとおり平文認証を制御できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 平文認証を許可しない</li> <li>■ TLS の有無にかかわらず常に平文認証を許可する</li> <li>■ TLS が有効であるときにのみ平文認証を許可する</li> </ul>
接続のセキュリティ	<p>次の接続のどれを許可するかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 暗号化された接続のみ</li> <li>■ 暗号化されていない接続のみ</li> <li>■ 暗号化された接続と暗号化されていない接続の両方</li> </ul> <p>デフォルトでは、暗号化された接続だけが許可されます。</p> <p>暗号化された接続をサポートするには、有効な PFX または PKCS#12 (.p12) 証明書ファイルを用意する必要があります。</p> <p>p.34 の「<a href="#">SSL/TLS 証明書の取得</a>」を参照してください。</p> <p>このウィザードでは資格情報をインストールできます。</p>



## 接続の制御

Enterprise Vault SMTP サーバーに接続できるコンピュータを制御できます。接続の制御リストにコンピュータを追加しない場合、すべてのコンピュータが Enterprise Vault SMTP サーバーに接続できます。1 つ以上のコンピュータをリストに追加する場合、リストに登録されているコンピュータだけが接続できます。

次の形式のいずれかを使用して接続するホストを指定できます。

- ホスト名
- ホスト名の接尾辞
- ホスト名のパターン
- IPv4
- CIDR 表記による IPv4 範囲
- IPv6
- CIDR 表記による IPv6 範囲

p.33 の「[接続するホストの名前または IP アドレスの入力](#)」を参照してください。

値を入力する際に使用する形式を選択します。次に、指定された形式で名前または IP アドレスを入力します。

代わりに、.csv ファイルから値をインポートできます。各ホストは *host\_name\_or\_address, format* として新しい行でリストに登録されているはずですが。

## 接続するホストの名前または IP アドレスの入力

このセクションでは、SMTP サーバーに接続するホストを指定するために使用できる形式についてより詳しく説明します。

- ホスト名 接続するホストの FQDN を指定します。英数文字とハイフン「-」だけが許可されます。連続したドットは許可されません。  
ホスト名の例:  
`server.example.com`  
`server-NY.example.com`
- ホスト名の接尾辞。ドメイン名を指定すると、そのドメインのすべてのホストからの接続を許可できます。  
ホスト名の接尾辞の例: `example.com`  
これにより、ホスト `server-NY.example.com` を含む、ドメイン `example.com` からの接続が可能になります。
- ホスト名のパターン。英数文字と文字 (0-9、a-z、\*、[]) を使用し、正規表現として許可されるホスト名を指定します。他の特殊文字と連続したドットは許可されません。  
ホスト名のパターンの例: `server[1-2]*.example.com`

これはパターン、`server1.example.com` や `server2-NY.example.com` のような、パターンと一致する名前を持つホストからの接続を可能にします。

- **IPv4.** ホストの IP アドレスを IPv4 形式 `nnn.nnn.nnn.nnn` で指定します。`nnn` は 0 ~ 255 の数字です。示されているドット以外の特殊文字は許可されません。連続したドットは許可されません。  
IPv4 アドレスの例: `192.168.1.2`
- **CIDR 表記の IPv4 アドレス範囲。** IPv4 アドレスの範囲を形式 `nnn.nnn.nnn.nnn/rr` で指定します。`nnn.nnn.nnn.nnn` はネットワークの IPv4 アドレスです。`rr` はサブネットマスクを示す 1 ~ 32 の数字であり、許可されるアドレス範囲を算定するために使用されます。追加のドット、スラッシュ、または他の特殊文字は許可されません。  
CIDR 表記の IPv4 アドレス範囲の例: `192.168.1.0/24`  
この例は、範囲が `192.168.1.255` ~ `192.168.1.0` のアドレスを示しています。
- **IPv6.** ホストの IP アドレスを IPv6 形式 `nnnn:nnnn:nnnn:nnnn:nnnn:nnnn:nnnn:nnnn` を使用して指定します。`nnnn` には 16 進数文字 (0-9、A-F、a-f) を含めることができます。示されているコロン以外の特殊文字は許可されません。連続したコロンは許可されません。  
IPv6 アドレスの例: `fd9b:cd26:df9c:fb4e:0000:0000:0000:0001`
- **CIDR 表記の IPv6 アドレス範囲。** IPv6 アドレスの範囲を形式 `nnnn:nnnn:nnnn:nnnn:nnnn:nnnn:nnnn/rrr` で指定します。  
`nnnn:nnnn:nnnn:nnnn:nnnn:nnnn:nnnn` はネットワークの IPv6 アドレスです。`rrr` サブネットマスクを示す 1 ~ 128 の数字であり、許可されるアドレス範囲を算定するために使用されます。図のように、16 進数文字、コロン、スラッシュのみを使用できます。IPv6 範囲の端に 2 つの連続したコロンを使用することもできます。その他の特殊文字も許可されません。  
CIDR 表記の IPv6 アドレス範囲の例: `2001:db8:1234::/48`  
この例は、範囲 `2001:db8:1234:0000:0000:0000:0000:0000` ~ `2001:db8:1234:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff` のアドレスを示しています。

## SSL/TLS 証明書の取得

次の種類の証明書が SMTP 接続セキュリティでサポートされます。

- 信頼できるサードパーティまたは認証局 (CA) が署名する商用証明書
- Windows PKI が生成した証明書 (Microsoft 社の証明書サービス)
- プライベートの (自己署名付き) 証明書
- サブジェクトの別名 (SAN) 証明書
- ワイルドカード証明書

承認済み認証局 (CA) からの証明書を要求するのに適したツールを使うことができます。たとえば、Enterprise Vault インストールフォルダにインストールした OpenSSL を使うことができます。

VeriSign 証明書を要求する場合は、サーバープラットフォームとして「Microsoft」を指定します。この場合には、ルート CA に信頼チェーンを確立するためにクライアントに必要なすべての中間証明書が、受信する証明書に含まれます。

サーバーの証明書および専用キーは PFX か PKCS#12 ファイルに置く必要があります。このファイルはパスワードを使用して暗号化する必要があります。

### SSL/TLS 証明書を入手するには

- 1 サイトに SMTP サーバーが 1 つのみある場合は、手順 6 に進みます。
- 2 Enterprise Vault インストールフォルダ内にある `openssl.cnf` のバックアップコピーを作成します。たとえば、`C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault` です。
- 3 編集するために `openssl.cnf` を開きます。
- 4 次の行の先頭から `#` を削除することによって `openssl.cnf` の次の行のコメントを削除します。

```
# req_extensions = v3_req # The extensions to add to a certificate request
```

- 5 サイト内のすべての SMTP サーバーを指定するため、以下の例で示すように、`openssl.cnf` の `[ v3_req ]` セクションに行を追加します。

```
subjectAltName = @alt_names
```

```
[alt_names]
```

```
DNS.1 = evserver1.example.local
```

```
DNS.2 = evserver2.example.local
```

```
DNS.3 = evserver3.example.local
```

```
DNS.4 = evserver4.example.local
```

- 6 次の OpenSSL 構文を使って証明書要求とキーを作成します。

```
openssl req -config openssl.cnf -new -nodes -keyout server.key  
-out server.csr
```

ここで、`server.key` は証明書キーを含むファイルの名前、`server.csr` は証明書署名要求 (CSR) を含むファイルの名前です。

組織についての情報の入力を求めるメッセージが表示されます。オプションのフィールドを空白のままにするには、ピリオドを入力します。次のフィールドがあります。

- [国名] は組織の本拠地のある国です。
- [州名または県名] は組織の本拠地のある都道府県です。省略可能。

- [地域名] は組織の本拠地のある市区町村です。省略可能。
- [組織名] は組織の名前です。
- [組織単位名] は組織内の要求中の部門です。省略可能。
- [共通名] は、MTA が SMTP 接続を作成する Enterprise Vault サーバーのエイリアスの完全修飾ドメイン名です。
- [電子メールアドレス] は電子メールアドレスです。省略可能。
- [パスワードの変更] は、証明書要求で送信される余分な属性です。オプション
- [オプションの会社名] は、会社の名前です。省略可能。

2 つのファイルが生成されます。CA に CSR ファイルを送信し、キーファイルを保有する必要があります。

#### 7 次に、専用キーを使用して、CSR に署名します。

サイトに SMTP サーバーが 1 つのみある場合は、次のコマンドを使って CSR に署名します。

```
openssl x509 -in server.csr -out server.pem -req -signkey  
server.key -days 365
```

サイトに SMTP サーバーが複数ある場合は、次のコマンドを使って CSR に署名します。

```
openssl x509 -in server.csr -out server.pem -req -signkey  
server.key -days 365 -extensions v3_req -extfile openssl.cnf
```

ここで、フォルダには `server` というファイルが 1 つ含まれているはずで、`server.pem` は、サーバーの証明書です。

#### 8 次のコマンドを使って証明書とキーを PKCS#12 (.p12) ファイルにエクスポートし、そのファイルを暗号化します。

```
openssl pkcs12 -export -in server.pem -inkey server.key -out  
server.p12 -descert
```

メッセージが表示されたら、ファイルを保護するパスワードを入力します。

## SMTP ターゲットアドレスの追加

SMTP ターゲットは、Enterprise Vault SMTP サーバーに送信された SMTP メッセージの中で Enterprise Vault が探す SMTP アドレスです。SMTP ターゲットアドレスは、サイトにあるすべての Enterprise Vault SMTP サーバーの設定に追加されます。複数の Enterprise Vault SMTP サーバーを含む環境では、いずれの SMTP サーバーもターゲット電子メールアドレスを含むメッセージを処理できます。

SMTP サーバーが **Enterprise Vault** のメッセージを認識するために、SMTP ルーティングアドレスをターゲットとして追加します。ルーティングアドレスは、メッセージを **Enterprise Vault SMTP** サーバーに送信するために MTA が使う SMTP アドレスです。選択 SMTP ジャーナルを実装する場合、アーカイブタスクがアーカイブするメッセージを選択するために使用するその他のアドレスをターゲットとして追加する必要もあります。

デフォルトでは、メッセージの **X-RCPT-TO** フィールドにターゲット SMTP アドレスが含まれる場合、SMTP アーカイブタスクは、関連付けられている SMTP ポリシーの設定に基づき、メッセージをアーカイブします。選択 SMTP ジャーナルを実装する場合、一部の対象プロパティの追加設定を実行する必要があります。

p.37 の「[選択 SMTP ジャーナルの追加設定](#)」を参照してください。

SMTP ターゲットアドレスを追加するには

- 1 ナビゲーションペインで、[ターゲット] > [SMTP] に移動します。
- 2 [SMTP] コンテナを右クリックし、[新規] > [ターゲット電子メールアドレス] を選択します。  
新規 SMTP ターゲットウィザードが起動します。
- 3 *user@domain* の形式でターゲットアドレスを入力します。ワイルドカード文字は SMTP ターゲットアドレスを指定するときは許可されません。
- 4 ターゲットアドレスを含むメッセージに適用する SMTP ポリシーと保持カテゴリを入力します。[次へ] をクリックします。
- 5 これらのメッセージを格納するアーカイブを選択します。[次へ] をクリックします。
- 6 ターゲットプロパティの概略が表示されます。[完了] をクリックします。
- 7 新しいターゲットアドレスに送信されたメッセージのアーカイブを開始するには、Enterprise Vault SMTP サーバーで SMTP アーカイブタスクを再起動します。サイトに複数の Enterprise Vault SMTP サーバーが存在する場合、各 SMTP サーバーで SMTP アーカイブタスクを開始する必要があります。

## 選択 SMTP ジャーナルの追加設定

選択 SMTP ジャーナルを実装している場合、次の追加設定を実行する必要があります。

- ターゲットとしてルーティングアドレスと選択したアドレスを両方とも追加します。  
配布リストに対するメッセージをアーカイブする場合、配布リストの SMTP アドレスをターゲットとして追加してください。
- サイトのプロパティを開き、[詳細] タブを選択します。  
[一覧表示する設定の種類] ボックスフィールドで、[SMTP] を選択します。  
[選択したジャーナルのアーカイブ] の値が [はい] であることを確認します。  
値が [いいえ] である場合、設定を選択し、[修正] をクリックします。この設定の値を [はい] に変更し、[OK] をクリックします。アーカイブタスクは、メッセージのすべての

フィールド (X-RCPT-TO、To、CC、BCC、From、Sender) でターゲットアドレスを検索します。

設定を適用し、サイトのプロパティのダイアログボックスを閉じます。

- 各 SMTP ターゲットアドレスのプロパティダイアログを開き、ターゲットアドレスを含むメッセージをアーカイブタスクに保存させるアーカイブに基づき、チェックボックスの[この SMTP アドレスから送受信されたメッセージをアーカイブする]を設定します。次の点を考慮し、このチェックボックスを選択するかどうかを判断します。
  - ターゲットが選択したアドレスである場合は、チェックボックスを選択します。それにより、ターゲットと関連付けられているアーカイブにこのターゲットアドレスを含むメッセージをアーカイブタスクが保存します。
  - ターゲットがルーティングアドレスであり、関連付けられているジャーナルアーカイブにこのアドレスへのメッセージを格納するようにアーカイブタスクを設定する場合、チェックボックスを選択します。このターゲットアドレスへのメッセージに選択したターゲットアドレスも含まれている場合、タスクはルーティングアドレスのアーカイブと選択したターゲットアドレスのアーカイブにメッセージを格納します。
  - ターゲットがルーティングアドレスであり、選択したターゲットアドレスに関連付けられたアーカイブのみにメッセージを保存する場合、チェックボックスの選択を解除します。

これらの設定の変更を適用するには、Enterprise Vault SMTP サーバーで SMTP アーカイブタスクを再起動する必要があります。サイトに複数の Enterprise Vault SMTP サーバーが存在する場合、各 SMTP サーバーで SMTP アーカイブタスクを開始する必要があります。

## SMTP アーカイブタスクの追加

Enterprise Vault SMTP サーバーは SMTP アーカイブタスクを 1 つだけホストできません。各アーカイブタスクは、独自のローカル SMTP 保存フォルダを必要とします。アーカイブタスクの実行に使われるアカウントには、保存フォルダに対するフルアクセス権が必要です。

SMTP アーカイブタスクを追加するには

- 1 管理コンソールを開き、Enterprise Vault[サーバー] > [サーバー] > [タスク]に移動します。
- 2 [タスク]コンテナを右クリックし、[新規]、[SMTP アーカイブタスク]の順に選択し、新しいタスクページを開きます。
- 3 SMTP アーカイブタスクの必要な情報 (SMTP 保存フォルダに適切なフォルダなど) を入力します。

SMTP アーカイブタスクは、Enterprise Vault SMTP サーバーが SMTP 保存フォルダに置いた .eml メッセージファイルを処理します。タスクは各ファイルを調べ、ファイルが

アーカイブ対象かどうかを判断します。タスクは SMTP ポリシーとターゲットの設定に従ってメッセージをアーカイブします。

ポリシーに登録されている X-Header がメッセージに含まれる場合、メッセージのアーカイブ時にそれらにインデックスが付けられます。メッセージに「X-Kvs」X-Header が含まれる場合、これらのヘッダーの値のより、ポリシーとターゲットの設定が上書きされます。

次の条件のいずれかが満たされるとき、アーカイブタスクはメッセージファイルを保存フォルダから削除します。

- タスクがメッセージを正常にアーカイブした後。
- アーカイブ対象のターゲットアドレスがメッセージに含まれない場合。これは、[この SMTP アドレスで送信または受信したメッセージをアーカイブする]チェックボックスが対象ルーティングアドレスに選択されていない選択ジャーナルまたはメールボックスジャーナルで発生する場合があります。

SMTP サービスおよび SMTP アーカイブタスクは継続的に実行されます。SMTP サービスが停止すれば、Enterprise Vault は SMTP サービス再起動を試みます。アーカイブタスクを停止した場合、SMTP サービスも停止するかどうかを確認するメッセージが表示されます。SMTP サービスを続ける場合、引き続きファイルが保存フォルダに追加されます。

保存フォルダのファイルを処理するとき、アーカイブタスクは一定の間隔でチェックポイントを実行します。タスクのプロパティの[詳細]タブでチェックポイント間隔を変更できます。

## SMTP 保存フォルダについて

各 SMTP アーカイブタスクには固有の保存フォルダが必要です。Enterprise Vault SMTP サーバーは、アーカイブタスクを処理するために、.eml メッセージファイルをフォルダに入れます。

保存フォルダパスは次の条件に従う必要があります。

- フォルダはローカルドライブ上に置く必要があります。
- フォルダには UNC パスを指定できません。
- フォルダパスで許可される最大長は 207 文字です。
- DBCS 文字と非 ANSI 文字はフォルダのパスに含めることができません。

SMTP サーバーと SMTP アーカイブタスクが実行されるアカウントには、保存フォルダへの完全アクセスを与える必要があります。このフォルダには機密なデータが含まれるため、他のアカウントがこのフォルダにアクセスしたり、アクセスを継承したりしないようにします。

保存フォルダはウイルススキャンから除外する必要があります。

保存フォルダはメッセージファイルがフォルダに置かれた時間に従って整理されます。時間は UTC 時間として指定されます。次に例を示します。

```
Mail Root (Holding folder)
  26 (day of month)
    15 (hour)
      30 (min)
        5cd6a8ba01cc51dd00000001.eml (actual email)
        6feb03d801cc2f0f00000001.eml
```

アーカイブタスクでメッセージファイルをアーカイブできない場合、ファイルは「Failed」という名前のフォルダに移動されます。Failed フォルダは、メッセージファイルが置かれる minute フォルダのサブフォルダです。

デフォルトでは、アーカイブタスクは、アーカイブが有効になっているターゲットアドレスを含まない保存フォルダのメッセージを削除します。SMTP サイト詳細設定、[受信者または一致するターゲットがないメッセージを削除する]を使用してこの動作を変更できます。[いいえ]にこのオプションを設定した場合、アーカイブが有効になっていない一致するターゲットアドレスを含まないメッセージは **NoMatchingTarget** フォルダに移動されます。このフォルダは **minute** フォルダの下で必要に応じて作成されます。そのような処理をレポートするには、SMTP サイト詳細設定 [メッセージがアーカイブ化有効ターゲットを含まないときのアクションをログに記録する] を有効にします。[受信者または一致する送信先がないメッセージを削除します] オプションを [いいえ] に設定すると、保存フォルダの領域がすぐに埋まる場合があることに注意してください。

次の手順では、保存フォルダの場所の変更方法を説明します。この手順はサイトの Enterprise Vault SMTP サーバーが単一か複数かによって変わります。

### Enterprise Vault 複数の SMTP サーバーがあるサイトで保存フォルダの場所を変更する方法

- 1 Windows サービスコンソールで、Enterprise Vault SMTP サービスを停止します。  
SMTP サービスが停止中に、サイトの別の Enterprise Vault SMTP サーバーの SMTP サービスと SMTP アーカイブタスクが新しい SMTP メッセージを受信および処理します。
- 2 SMTP アーカイブタスクが保存フォルダにあるすべての保留電子メールファイルを処理するまで待ちます。  
SMTP アーカイブタスクがメッセージファイルの処理を完了すると、Enterprise Vault 管理コンソールでタスクを停止します。
- 3 SMTP アーカイブタスクのプロパティで、保存フォルダの場所を変更します。
- 4 Enterprise Vault SMTP サービスを再起動します。アーカイブタスクは自動で再起動します。



単一の Enterprise Vault SMTP サーバーがあるサイトで保存フォルダの場所を変更する方法

- 1 Enterprise Vault 管理コンソールで、SMTP アーカイブタスクを停止します。
- 2 [SMTP サービスの停止]を選択して[はい]をクリックします。

---

**メモ:** SMTP サービスを停止すると、接続を試行するすべてのホストが拒否されます。SMTP サービスを長時間停止しないでください。

---

---

**メモ:** SMTP サービスを停止しないと、このサービスはメッセージを受け入れて保存フォルダに保存し続けます。

---

- 3 新しい場所に既存の SMTP 保存フォルダのツリーをコピーします。
- 4 管理コンソールの SMTP 保存フォルダの場所を変更します。
- 5 Enterprise Vault SMTP アーカイブタスクを開始します。タスクを開始すると Enterprise Vault は自動的に SMTP サービスを開始します。

## アーカイブ済みメッセージのセーフコピーの保持

Enterprise Vault は SMTP メッセージのセーフコピーを格納するために SMTP 保存フォルダを使用しません。[はい、元の場所に保持します]のセーフコピー設定があるボルトストアに SMTP メッセージをアーカイブするとき、Enterprise Vault はセーフコピーをストレージキューに維持します。

これらのセーフコピーの十分な容量がストレージキューの場所にあることを確認する必要があります。

ストレージキューについて詳しくは『管理者ガイド』を参照してください。

## タスクの概略レポート

SMTP アーカイブタスクは、フォルダ

`Enterprise_Vault_installation_folder\Reports\SMTP\SMTP_task_name` で概略レポートとエラーログレポートを生成します。

アーカイブタスクのプロパティの[詳細]タブで、概略レポートを生成する間隔を変更できます。

# PowerShell cmdlet

この章では以下の項目について説明しています。

- SMTP アーカイブのための PowerShell コマンドレットについて

## SMTP アーカイブのための PowerShell コマンドレットについて

表 5-1 は Enterprise Vault 管理シェルが SMTP アーカイブ構成を管理するために提供する PowerShell コマンドレットの一覧です。コマンドレットについて詳しくは『PowerShell コマンドレット』ガイドを参照してください。

表 5-1 SMTP アーカイブのための PowerShell コマンドレット

PowerShell cmdlet	説明
Get-EVSMTPHoldingFolder	現在の Enterprise Vault サーバーの SMTP アーカイブタスクに設定されている SMTP 保存フォルダの詳細を取得します。  Get-EVSMTPHoldingFolderは、Enterprise Vault 管理コンソールが自動インポートしない  Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Core.dll によって提供されます。この モジュールをインポートする必要があります。
Get-EVSMTPPolicy	既存の SMTP ポリシーのプロパティを取得します。
New-EVSMTPPolicy	新しい SMTP ポリシーを作成します。
Remove-EVSMTPPolicy	SMTP ポリシーを削除します。
Set-EVSMTPPolicy	既存の SMTP ポリシーのプロパティを更新します。
Get-EVSMTPTarget	既存の SMTP ターゲットのプロパティを取得します。

PowerShell cmdlet	説明
New-EVSMTPTarget	新しい SMTP ターゲットアドレスを追加します。
Remove-EVSMTPTarget	SMTP ターゲットアドレスを削除します。
Set-EVSMTPTarget	既存の SMTP ターゲットアドレスのプロパティを更新します。
Get-EVSMTPServerSettings	サイトのすべての Enterprise Vault SMTP サーバーに適用する SMTP サーバー設定を取得します。
New-EVSMTPServerSettings	サイトのすべての Enterprise Vault SMTP サーバーに適用する SMTP サーバー設定を作成します。
Set-EVSMTPServerSettings	サイトのすべての Enterprise Vault SMTP サーバーに適用する SMTP サーバー設定を更新します。
Sync-EVSMTPServerSettings	Enterprise Vault ディレクトリの SMTP サーバーから指定した Enterprise Vault SMTP サーバーに SMTP サーバー設定を同期させます。

X-Header のリストを管理する方法については、`get-help about SMTPXHeaders` と入力してください。

次のコマンドは、SMTP サーバーへの入接続の認証に関する情報を提供します。

- `get-help about SMTPConnectionControlList`
- `get-help about SMTPEnumerations`
- `get-help about TlsCertificate`